

II - 1 開会式

主催都市あいさつ



Pusadee Tamthai
バンコク都副知事

アジアのアイデンティティを強め、国際社会においてアジアの重要性を高めることだ。

現在、世界的な傾向として、人口の高齢化とすべての人々の公平な公共サービスへのアクセスが注目されている。そこで、今回の実務者会議では、「バランスのとれた暮らしと持続可能な生活」をテーマにした。我々は、バランスのとれた暮らしと多様な環境の都市で持続可能な生活を送ること、そして、異なる背景を持つ人々が互いの理解や敬意を

高めることの重要性を認識している。

会議のサブテーマは、「高齢化社会」と「公共資源へのアクセスとその公平な分配」である。会員都市にとってこの会議は、高齢化社会において人々の役に立つため、また私たちが公共資源を上手に管理することで、都市のすべての人が公共資源に平等かつ公平にアクセスできるようにするために、賢い計画を立て、事業を開始する良い機会になる。

私はアジア太平洋地域において、会員都市が優位に立ち、持続可能な発展において間違いなく重要な役割を果たすと信じている。また、会員都市間が強くつながっているため、アジア地域において、会員都市が優れた模範となることを願っている。今後、会員都市の人々の生活のバランスをとることや調和を図ることがさらに話題になると思う。私たちが将来に備えるにあたり、本日の発表や議論が今後のさらなる協力の出発点となる有益な視点、知識、経験を交換するための絶好の機会となるだろう。



II - 2 基調講演

テーマ「公共資源へのアクセスとその公平な分配」



佐藤 摩利子
(さとう まりこ)
国連ハビタットバンコク
事務所所長

＜国連ハビタット＞

国連ハビタット(国際連合人間居住計画)は、持続可能な都市の開発と、居住の問題に取り組む国連機関で、1978年に創設された。

2015年の国連総会では、今後20年間の「持続可能な開発目標」を加盟国が採択しようとしており、17の目標が提案されている。都市の開発や居住に関わる目標としては、「都市や人間居住を包括的、安全、回復力のある(レジリエント)、持続可能なものにする」が掲げられている。

＜都市化の進展＞

都市の発展の3つの原動力は、まず、自然増加、次に、他の地域からの移住、さらに都市の再分類(周辺都市を含めた広域化など)である。これらによりメガロポリスが生まれるなど、都市は拡大している。

アジア太平洋地域では、都市化が急速に進展している。アジアにおける1,000万人規模のメガシティは、かつては東京だけだったが、2020年までに、16~17のメガシティが加わることになる。メガシティは発展しているが、アジア太平洋の都市の60%は人口が100万人以下で、その規模の都市が急速に発展している。世界的に見ても、最も急速に成長している中小都市がアジア太平洋地域には多

い。これは都市政策によりこれからのまちづくりをよりよい方向へ施策転換する好機だ。

しかし、不平等という課題がある。都市のジニ係数は増大しており、豊かな人はさらに豊かに、貧しい人はさらに貧しくなっている。不平等は都市を不安定にする。特に、アジア太平洋地域では都市の人口の30%がスラムといわれる、適切な衛生設備、水、住居などがない劣悪な環境で暮らしている。この問題に取り組む必要がある。

＜都市化はアジア太平洋の変革の鍵＞

まとめると、都市化はアジア太平洋地域の変革の鍵になる。経済面では、例えば、アジア太平洋地域の42%にあたる都市部が地域全体のGDPの84%を創出しており、都市がアジア経済成長に与える影響は大きい。また、私たちは都市のスケールメリットを利用し、高齢者が基本的なサービスを利用できるようにしなければならない。アジアの都市はかつては世界の生産工場の中心だったが、現在はサービス産業、知識経済、IT産業に移行している。これは高齢者が社会的な力をつける機会でもあるのだ。また国境の壁が低くなり、都市と都市がつながってきている。特に2015年末のアセアン経済共同体発足により、都市と都市が国境を越えてさらにつながるようになるだろう。若年人口が増大しているため、若者の雇用対策に取り組まなければならない。

社会面では、都市は地域の社会的・文化的規範を変え、農村地域にも影響を与える。都市は、どうすれば独自性を保ったまま、グローバル経済の一部になること